

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1790100042		
法人名	医療法人社団 仁智会		
事業所名	グループホーム 駅西		
所在地	石川県金沢市駅西新町2-12-1		
自己評価作成日	平成31年3月15日	評価結果市町村受理日	令和2年7月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 寺井潔ソーシャルワーカー事務所		
所在地	石川県金沢市有松2丁目4番33号		
訪問調査日	令和2年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道沿いですが、事業所の周囲は閑静な雰囲気です。目前には児童公園があり、近隣の方と自然とふれ合う機会もあるなど環境に恵まれております。
利用者一人ひとりが自分のペースを大切に生活と安全に配慮しながらも自由な外出の支援に取り組んでいます。
利用者・職員・家族の方が、共に支え合い感情豊かな生活を過ごせるような支援に努めています。
地域の一人として地域行事やに参加させて頂いております。
中庭には小さな家庭菜園があり収穫等や景観・季節感を楽しんで頂いております。
母体である金沢春日クリニックの主治医・看護師に医療面のサポートを受けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所と地域のつきあいは、商業地域にあるため、地域住民との日常的な交流はあまりないが、町会の行事としての公園の清掃活動や、西地区の合同避難訓練や盆踊り等に参加している。食材等は、基本毎日利用者と一緒に、近くのスーパーに買い物に出かけている。事業所の前には広い児童公園があり、利用者は思い思いに散歩したり、ベンチでくつろいでいる。
食事の支援としては、献立は入居している皆さんの希望も聞いて作成している。食材は、できるだけ毎日買い物に行き、旬の物や好みの物を提供しよう心がけている。また、食材の下ごしらえや味見、盛り付け、後片付けなど手伝ってもらい、職員も一緒に食べ、味やメニューの話など会話をしながら、食事時間を楽しんでいる。15時ごろはおやつの時間であり、サツマイモ蒸しパン、ホットケーキ、シソジュース、かき氷などの手作りおやつで楽しむこともある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、法人の理念を元に事業所独自の理念「自然な笑顔と元気な身体で安心して暮せる家」を掲げ、共有し実践している	法人の理念や行動指針はパンフレットやホームページに掲載され、職員ひとり一人にクレドとして配布されている。また、年に2回法人の新人研修時には理念についての講義が行われている。グループホームでは法人理念とは別に事業所のユニット毎の理念があり、事業所内に掲示するとともに新入職員が来た時には、管理者が理念についての話をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や近隣のお店に出掛ける事で自然と地域に受け入れられてきている。地域行事(夏祭りや文化祭等)、児童公園の清掃や草むしり等に参加	商業地域にあるため、地域住民との日常的な交流はあまりないが、町会の行事としての公園の清掃活動や、西地区の合同避難訓練や盆踊り等に参加している。食材等は、基本毎日利用者と一緒、近くのスーパーに買い物に出かけている。事業所の前には広い児童公園があり、利用者は思い思いに散歩したり、ベンチでくつろいでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通じて認知症高齢者に対する理解と協力を得る為の取り組み等を積み重ねている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度は、不定期ながらも運営推進会議を開催しており、サービス向上に取り組んでいる	家族、市役所職員、地域包括、民生委員、地域住民代表、消防署員等が参加して2か月に一度開催している。会議では外部評価の結果やアンケート集計結果や、身体拘束廃止への取組、ユニットで行われるレクリエーション活動見学、ホームの災害対策等について報告が行われ、質疑応答をしている。また、ホームの日常生活の様子や、季節の行事等は映像を使用してわかりやすく説明している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	十分に情報提供を行なっているは言えない。金沢市主催の研修等に参加している。事故等の報告にて連絡、協力関係を維持している	金沢市と事業所が直接に連絡を取ることは、事故報告以外にあまりない。今年度は幸いに報告すべき事故も発生していない。市から研修や、集団指導の案内が来た時には積極的に参加し、今年度は多職種連携、高齢者虐待防止等の研修や集団指導には参加している。年が明けてからの研修にも3件申し込んであったが、コロナウイルスのために研修中止となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会の設置及開催。施設な研修(勉強会)を通じて職員に周知徹底とケアの実践を行っている	身体拘束等の適正化のための指針があり、研修や身体拘束適正化委員会もきちんと開催されている。令和1年8月には、介護者がつい犯しやすい見えない拘束(スピーチロック)についての研修を行っている。玄関の施錠は夜勤帯に防犯上の観点で実施している。また、転倒リスクの軽減のためにセンサーを使用している方も数名いる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日の申し送り、定期的なミーティングの場においても職員間で話し合いお互いに確認する事で虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての研修等で学ぶ機会をもっており、制度を利用したい家族には活用できるように支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際には利用者や家族の不安や疑問等を確認させて頂き、十分な説明を行い理解・納得を頂いたうえで契約等を行なっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方には日々の生活状況の中から食事内容や外出等の要望、不満、苦情を職員を読み取り、家族には面会・ケアプラン開示時や運営推進会議等にてホームに対する意見や要望を受け入れる事で運営に反映している	苦情の体制は重要事項で周知されているが、今年度は苦情は寄せられていない。家族とは個別の来訪時に利用者の近況報告をし、家族の意見や要望を聴取している。家族会はないが、茶話会を開催しているような意見や要望をもらっている。また、半年に一度はケアプランを更新するのでその時には来訪してもらい、家族の意向を聴取している。運営推進会議の議事録や便りを送付して、家族と連絡を取り合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は他職員と同様の勤務シフトのなか職員の意見・提案・不満・苦情を聞く機会が自然と設けられる環境下にある。またリーダーからの情報やミーティング等から運営に反映・改善できるよう取り組んでいる	管理者は職員の意見や提案は、ユニットのミーティングや申し送り時などはもちろん、他の職員と同じシフト勤務に入っているのでも聞く機会を持っている。グループホーム直接の担当上司は月に一度訪問したり、電話での連絡を取り職員の話を聞いている。法人全体での忘年会には、理事長も出席して、職員と歓談している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握しており、就業規則を明確に提示、給与制度の見直し改善を図る等職場環境・条件の整備に努めている。しかし、職員退職後の人員補充が円滑に進まず職員負担の増大がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の初任者研修や外部研修の機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	母体の法人内での交流やグループホーム部会や外部主催の訪問研修等をうけいれている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談員からの情報収集だけでなく入居前に直接的に本人と面談する機会を設け、不安や要望等を十分に把握して本人との信頼関係を築けるように努めている。必要とあれば入居前に見学等実際に本人がホームの雰囲気を感じていただけるよう取り組んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時及びサービス導入時に家族と十分な面談を持ち、家族の考えや要望・不安等を十分に理解したうえで信頼関係を築きあげるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に本人と家族が本当にグループホームでのサービス提供が妥当かどうか見極めた上でサービス利用としている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者と共に日々の献立を考えたり、食事の準備や片づけ等、居室や共用スペースの清掃等一緒に行う事で共に支え合う関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは面会時等で常に情報交換を行い、家族と共に本人を支えていくという意識のもと家族に認知症や身体機能低下が進行していく本人の対応を助言や家族の不安軽減に努め信頼関係を深めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの友人や知人が気軽に来訪できる環境を整えたり、これまでの関係が途切れないような支援をしている。家族の方だけでなく定期的な知人の面会もみられる	利用前に面接に行き、生活の様子を聞いて、家族やケアマネジャーからも情報提供してもらい、入居後も継続した生活ができるように配慮している。入居時には家で使い慣れていた家具や電化製品、枕、調度品等様々な物を持ってきている。また、箸や食器も自分専用のものを家から持ってきている。入居後も正月や墓参り、食事に家族と出かける人もいる。知り合いや親戚の人が遊びに来ることも多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂席や共用スペースでは利用者の個性を尊重、同士の相性等を優先した配置を行う事で自然に関わり合え、お互い支え合う環境が出来ている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約解除(退居)後も必要に応じて相談や支援を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活のリズムに合わせた昼寝や就寝時間等の睡眠調整。小さな表情の変化や普段と違う行動等のサインを読み取り対応	アセスメントや、家族、ケアマネジャーからの情報も参考にしながら、日々の生活の中で利用者の目線や、雰囲気、しぐさ等を注意深く観察して、気づいたことを職員間で共有して、蓄積し本人本位の検討ができるようにしている。例えば、食べることで体がわからなくなっている人には、身ぶり手ぶりでご飯だということを理解してもらったり、食べやすい食材に変更したりして食事へと誘導している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や環境、馴染みの暮らし方等を本人から自然に引き出したり、家族の方からも本人の生活歴等を面会時等を通して情報収集に努める事で把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の朝夕の申し送りや定期的なミーティングやカンファレンスの場を通じて常に一人ひとりの現状を常に把握している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見や思いを反映させ、ケアマネ・計画作成担当者が中心となりユニットミーティング時にカンファレンス・モニタリングを行う事で現状に則した介護計画を作成している	計画作成担当者がアセスメントを行い、サービス担当者会議を開催してプランを周知している。モニタリングは毎月実施して大きな変化がなくても6か月に一度は計画を更新している。ケアプラン作成時には、家族に来訪してもらい家族・本人の意向の確認をしている。介護経過記録には、ケアプラン2表のニーズとサービス内容の番号を付して、ケアプランに沿った記録を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を記録に記入する事で職員間の情報共有を図り介護計画見直しに活かし、気づきや工夫の記録と実践への反映にしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて他科受診のサポートや早期退院への支援に取り組んでいる。時々の状況・状態に応じた柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組みに努めたい		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は地区のお年寄りサロンに参加したりしていたが、今年度も参加しておらず地域資源との協働が十分ではない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時、本人・家族にかかりつけ医の希望や確認を取り、適切な医療を受けられるように支援している。同法人医師が主治医の場合は医療情報が共有できる体制となっている	協力医療機関が主治医の利用者は16名、その他の主治医が2名となっている。主治医は往診してくれるので、職員は直接医師に状況を伝え、医師から指示を受けている。歯科医師も往診してくれているので利用者は適切な医療を受ける事が出来る。精神科受診の時には職員が同行して、詳しい説明をするほか、他科受診時に家族の都合がつかない時には職員が通院介助している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併任の看護師へ情報や気づきを看護師連絡表記入し情報の共有を行っている。24時間看護師と相談できる体制が整っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来るだけ早期退院ができるように情報交換や相談に努めている。病院側とのカンファレンス実施等		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化した場合の説明を行い了承を頂いているも、状態の変化に応じて家族と相談・決定を行なっている。同法人クリニックや老健施設への転院等も行っている	契約時に「緊急時の対応」と「重度化への対応」について説明し同意をもらっているが、ここ数年看取りの事例はない。重度化した場合には、協力医療機関の医師と連携して、施設の移行、入院などについて検討をする。同一法人内に病院や、老人保健施設等があるのでスムーズに移行できるように家族と話し合っている。移行の際の目安となるのは、利用者が経口摂取困難となり、食事がとれない状態となる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほぼ職員全員が救命講習等を受け実践力を身に付けている		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時の対応マニュアルや体制は整備されている	「リスクマネジメントマニュアル」があり、この中に『「事故ひやりはっと」にかかる手順』や「事故発生時対応マニュアル」などがファイルされている。また、「離設リスク者対応ファイル」なども作成され、事故の種類ごとにマニュアルが作成されている。「ひやりはっと報告」や「事故報告」が提出された際に、ミーティングなどで検討し、マニュアルの周知にも繋げている。マニュアルは、事務所に設置しており、全職員が把握している。	
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関が同法人であり、月2回主治医が訪問診察で来設している等バックアップ機関の支援体制が確保されている	協力医療機関は金沢春日クリニックであり、利用者は月2回診察を受けている。そのため、主治医は、月10日以上は来所している。緊急時など1年を通して24時間連絡が可能である。この他、市内の協力歯科医院には、必要時に往診してもらっている。バックアップ施設は、金沢春日ケアセンターであり、車両や物品を借りたり、花火や秋祭りなどに参加したり、職員の交流があったりと密に連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	各ユニット1名の夜勤体制及び緊急時は職員が対応するマニュアルが整備されている	2ユニットであり、夜間は二人体制である。夜勤者二人だけになるのは、19時から翌朝7時までである。夜間帯に利用者に状態の変化があった場合は、看護師に連絡し指示を受けている。看護師につながらなければ、管理者や直接主治医へ連絡を入れている。今年度2度夜間帯に救急車を呼んでいる。救急車を呼んだら、緊急時の対応として、①すぐ近くの職員②管理者③ケアマネジャーという優先順位で連絡し、応援に来ることになっている。担当フロアの夜勤者は、決められた救急時の持ち出し品をセットして、救急車に同乗している。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対応マニュアルや防災備品は整備や定期的な避難訓練の実施されている。地域との協力体制が不十分	2019年10月28日に、ホーム単独で訓練のための予備訓練を実施、10月31日に消防署立ち会いで、夜間想定総合訓練を実施している。運営推進会議と同日に行い、家族や地域の方の参加もあった。11月12日には、事業所単独で昼間想定総合訓練を実施している。訓練時には、管理者が消防設備について説明を行っている。また、訓練前には「消防訓練内容」を作成し、職員へ周知し、訓練後には「訓練報告書」を作成し、訓練の振り返りを行い、職員の防災意識を高めるよう努めている。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	利用者の安全確保のため法人との協力体制はある	「緊急・防災マニュアル」の中に、「夜間・休日緊急連絡網表」や「GH駅西における災害及び緊急時連絡一覧表」、「GH駅西 消防マニュアル」、この他法人の防災マニュアルがファイルされている。訓練後に「訓練報告書」を作成するなどして、職員の防災意識を高めるとともに、マニュアルの周知につなげている。備蓄は、「防災備蓄品管理ファイ表」が作成され、年2回はチェックし、それ以外に消費期限により交換している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間のミーティング等の場においても利用者の人格や尊重に配慮した言葉かけや対応について十分に話し合っている。特に排泄や入浴の場面において入居当初はできるだけ同性対応にて配慮を行っている。また言葉かけや対応に関しては個々のタイミングや言葉使いを常に注意している	「接遇マニュアル」が作成され、この中に利用者へ接する際の心構えやプライバシーへの配慮についても示している。職員は、日々マニュアルの主旨に沿った支援を心がけている。特に入浴や排泄の支援の際は配慮し、失禁の対応の際は、他の人に気づかれないよう、さりげなく対応している。また端的で、わかりやすい言葉をかけたり、行動を促すときには、言葉だけではなく手を添えたり身振りで示すなど、心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で利用者一人ひとりが自らの思いを言えたり、いろいろな場面において選択肢を提供し自己決定できるような声かけや働きかけをしている。朝刊の個人購入等		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの状態やペースに合わせた入浴(時間や順番)や食事形態等の提供を行っている。日々の生活を本人の希望に沿って過ごせるよう支援している		
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとの衣替えをサポートし過度の重ね着にならないよう調整し、その人の好みによって服が選べるよう支援している。外出時等は特に注意している。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、利用者と職員が同じ時間、同じ場所で同じ食事を摂り、盛り付けや片付けを行っている。季節の食材や好みの食材を常に取り入れている	「GH駅西 業務マニュアル」が作成され、食事の項目では「会話を楽しみながら楽しい雰囲気の中で食べていただく」、「自分で食べることができるよう工夫する」、「食堂は明るく、清潔であること」、「室温に気を付け、換気をする」、「嗜好を大切にする」、「温かいものは、温かいうちに」などが示してあり、日々取り組んでいる。献立は、1階ユニットでは、1週間分の献立を作っている。2階ユニットでは、毎日献立を決めている。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	こまめな水分摂取を嫌がる利用者にはお茶、ジュース等本人の嗜好に合わせた提供を行う事で脱水症状等の予防対策を行っている。嚥下機能低下の状態に合わせてキザミやトロミを加えながらも彩りや食欲を損なわない食事の提供に心がけている		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態に応じて口腔ケアの声かけ見守り、サポートを行なっている。義歯利用者には洗浄後消毒等の際、認知症による混乱を最小限に抑えつつ清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて排泄チェック表等を記入し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。声かけや誘導で排泄の失敗を軽減し、紙パンツ等を使用する際も家族の意向や職員間で話し合い排泄の自立を維持できるよう支援している	入居時など必要に応じて排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握することで、失敗を防ぐように取り組んでいる。特にトイレの場所が認知できない方や尿意・便意が不明慮な方へは、タイミング良い声かけをするよう取り組んでいる。また、病院から入居してきた時は紙パンツであっても、生活環境に慣れていく中で、声かけ、誘導によりトイレで排泄し、布パンツで生活できるように支援している。紙パンツを使用する際も、安易に使用するのではなく、家族や職員間で話し合いを行っている。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に水分や野菜等食物繊維の摂取を心がけ、便秘状態に応じて下剤の使用等を調整している。一人ひとりの排泄サイクルを把握し便秘の予防に努めている。毎日ヨーグルト(個人用)を摂られている利用者もいる		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴したい時に入れるようにほぼ毎日準備している。利用者のペースを大事にしながらも個々に合わせた調整を行ない安心して入浴できる支援を行なっている。利用者によっては同性職員対応等不快・不満にならないよう対応している	業務マニュアルの「入浴」の項目には、「本人の意思を確認する」、「プライバシーを守る」、「できる事はしていただき、必要時介助を行う」、「室温、換気に配慮する」などが示されている。お風呂は毎日わいており、週2回は入浴してもらうように支援している。本人の好みの湯加減で、可能な限り満足するまでつかってもらっている。また、浴室内で歌を歌ったり、コミュニケーションを取り、入浴時間を楽しんでいる方もいる。拒否する方へは、例えば足湯から始め入浴につなげたり、清拭しながら入浴を勧めたりと個々に合わせた工夫を行っている。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠傾向の方に対しては、主治医や精神科医と相談し安易な睡眠薬の使用にならないよう注意している。本人の生活習慣に合わせて安心して眠れるような支援に努めている。日中の休息等は状態に応じた静養をサポートしている		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用をほぼ把握しており、利用者全員を服薬チェック表で誤薬等不備が無いよう注意している。認知症等本人の状態に合わせた服薬の支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や残存能力を活かした家事仕事等役割の提供。カルタや習字等の楽しみごとや体操やレクリエーションによる気分転換等の支援をしている		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物や散歩、ドライブ等で日常的に戸外へ出かけられるよう外出の支援をおこなっている。家族の方とは面会時等一緒に外出されたり、外泊もされている	気候の良い時期は、前の公園周辺を散歩することで、近隣住民や保育園児と自然な交流ができています。また、ドライブにもよく出かけています。卯辰山、河北潟、倶利伽羅の八重桜など桜の名所、県庁の展望台には年数回は行っています。地区の盆踊りには4名の方が参加し、清掃活動には早起きで元気な方1名が参加しています。ホームとしての外食は今年度は1度であったが、個別の外食に出かけたり、家族と墓参りや外食に出かけている方もいます。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員で管理しているも買物にでかけ本人が欲しい物を購入される場合には状態に応じ財布から本人に直接精算される支援も行っている		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば家族や大切な人に自由に電話をしたり手紙(年賀状等)が出せるように支援している。携帯電話を持ち込まれて利用していた方もいる		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂スペースは利用者の相性等配慮した配置することで居心地の良い環境を提供。共用スペース壁面には毎月季節感表した装飾を施している等工夫している	日中はリビングで過ごす方がほとんどなので、清掃し清潔を保ち、採光、換気、温度調節を行なっている。リビングでは、かるたや歌を歌ったり、ゲームなどで楽しんでいる。テーブルのシミや傷を見て混乱する方もいるので、テーブルクロスやお盆などで目隠しするなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。また、リビングの壁には、習字やぬり絵などの利用者の作品を掲示してある。そして、毎月季節を感じられるように、季節の行事ごとに合わせて壁の飾りつけを行っている。	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事スペース、談話スペースとわけた配置にし利用者同士が自然に誘いあって自由にくつろぎながら談話し過ごされている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い馴染んだ家具を居室に置き家族の写真や花を飾ったりして少しでも本人が居心地よく過ごせるように環境を整えている。時計やカレンダー設置にてで季節や日時の明確化を行い混乱の予防を図る。テレビ等電化製品も設置している	入居時には、使い慣れた馴染みの家具等を持ち込むように話している。ラジオやテレビ、写真など好みの物を持ち込んでいる。居室の清掃とベッド周辺の整理整頓は毎日行い、できる事は一緒にやってもらっている。また、採光、換気、室温調節にも配慮している。週1回シーツ交換があり、冷房の入る前と暖房の入る前には、重点的に居室の清掃を行っている。転倒リスクのある方には、センサー設備やベッド位置、家具の配置に配慮し、安全で安心して過ごしてもらえるよう取り組んでいる。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ・浴室などに手すり等の設置で一人ひとりの身体機能を活かして安全かつ自由に自立した暮らしができるように工夫をしている。居室のベッド位置等一人ひとりの身体状態に合わせた配置となっている		